

つかず少々閉口して居た所同じく C. G. ALM 氏から歐洲の *C. macilenta* FRIES なるものはハクサンスゲ、ヒメカハズスゲとアカンスゲとの間の雜種である由御注意があり且それについての HOLMBERG 氏のレプリント及標本若干をも送つて呉れたので本邦産のものも判りかけた様な次第である。

最後の判断を下すには栽培試験か或は少くとも自生地の状態を詳細に調査せねばならぬが標本だけの上では厚岸産のものも歐洲産同様何かの雜種植物で恐らく *C. canescens* × *C. pseudo-oliacea* 又は *C. canescens* × *C. oliacea* と思はれる。

尙その外に *C. macilenta* FR. の本邦に関する報告としては FR. SCHMIDT (樺太) と宮部博士(千島)のがあるが後者は昨年北海道樺太植物誌上にてヒメカハズスゲと訂正されて居るので此の植物には関係がなく、前者も恐らく厚岸のものと同様な雜種ではあるまいかと思はれるので此れ以上の確證が上るまでは本邦のものも雜種であると考へ、純粹な植物としてのリストから除外する事とするが此の類及びアゼスゲの類はスゲ屬中でも雜種する場合が比較的多い様思はれる、此れは互ひに類似のものが多い上に殆んど全部濕地産であつて比較的一ヶ所に集る機会が多い事によるのであらう。

## 羊 齒 植 物 雜 録 1.

田 川 基 二

### 1) *Athyrium microsorum* MAKINO テバコワラビ

本種は従来、土佐國手箱山、伊豫國石槌山、瓶ヶ森、阿波國劍山等四國の高山の特産種の如く思はれてゐたが、近年丹後國青葉山(竹内敬氏)、近江國伊吹山(田代善太郎、橋本忠太郎、松山外次郎諸氏)、金鷺山(橋本忠太郎氏)、駿河國梅ヶ島村(杉本順一氏)等本州にもかなり廣い範圍に分布してゐることが知られた。FAURIE 氏はすでに1905年に信濃國乘鞍嶽に採取してゐる。No. 7234 が即ち本種である。

### 2) *Athyrium spinulosum* MILDE ミヤマイヌワラビ

樺太、朝鮮、滿洲、アムール、ウスリー、支那、ヒマラヤ等所々に分布するメシダの一種であるが、大井次三郎氏は信濃國八ヶ岳(大岩及び赤岳鑛泉)に採取された。本州では稀品である。

### 3) *Diplaziopsis javanica* C. CHR. イハヤシダ

有名な暖地性の種類で南支那、馬來、北印度、セイロン、ジャバ等に分布し、本邦では臺灣、九州には諸所に産し、伊豫の岩屋山、小田深山、大和の室生山等では以前から知られてゐたが、近年羽後國仁鮎村濁川山國有林に發見され、續て昭和五年八月、堀芳孝氏は越前國大野郡五箇村上打波に發見された。

4) *Dryopteris Sieboldii* KUNZE ナガサキシダ

九州、四國（伊豫、土佐）、周防（岩國）に見る日本特産種の一であるが、田代善太郎氏は昭和二年九月淡路國猪鼻谷に発見された。

5) *Polystichum Braunii* FÉE ホソ井ノデ

本邦では北海道、樺太、千島、朝鮮に知られてゐるが、昨年八月杉野辰雄氏は之を甲斐國大武川に採取された。本州では他に産地を聞かぬ。海外にあつては滿洲、アムール、コーカサス、支那、歐洲、北米に分布する。

6) *Cystopteris sudetica* AL. BR. ET MILDR ヤマヒメワラビ

同じく杉野氏が信州駒ヶ岳に採取された。大井氏は昭和五年六月、北朝鮮の四芝嶺、倉坪嶺で採取されてゐる。内地では稀品に屬する。従來ヒカゲワラビと呼ばれてゐるが、*Diplazium Naganumanum* MAKINO の和名と混雜するから植物名彙452頁（大正五年）にあるヤマヒメワラビを採用しやう。

7) *Adiantum Capillus-Junonis* RUPR. ホウライクジャク

本種は支那西南部、臺灣（高雄）に知られてゐる珍種であるが、田代善太郎氏は之を豊後國南海部郡小半の石灰岩上に発見された。内地のシダ類に一種を加へたわけである。

8) *Polystichum Lonchitis* ROTH カラフトデンダ（新稱）

本種はヨーロッパ、ヒマラヤ、コーカサス、トルキスタン、カムチャツカ等北半球の北部に廣く分布し、北樺太ではすでに知られてゐるが、南樺太にも発見された。即ち坂勤氏は昭和四年保惠山に、翌年、菅原繁藏氏は幌登山に発見して、本邦のシダ類に一種を加へられた。カラフトデンダと新稱し、次に簡単に記載しやう。

根莖は短形、直生、葉は叢生、葉柄は3—5稜、基脚黒褐色、羽軸と共に鐵錆色薄膜質の卵狀披針形鱗密生、葉面は長橢圓狀披針形、銳頭、長15—20稜、徑2.5—3稜、單羽狀複生、各側羽片約30對、下部羽片は漸次縮小す、羽片は刀狀卵形乃至刀狀長橢圓形、鈍頭芒端、芒尖鋸齒緣、不等廣楔脚、上側耳垂、上面無毛、下面毛狀鱗散生、革質、囊堆は圓形、邊緣中脈の中間に列生、包膜は圓形、膜質、齒緣。

## 固有日本に於ける暖地性植物の北限

田代善太郎

今臺灣沖繩方面より由來する暖地性植物の分布を五段階に分ちて、ほゞ之を限界とする代表植物を擧ぐれば

第一段階 薩隅の外海側、日向の南端及五島の南端と土佐の足摺地方 ソテツ、